

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500903		
法人名	社会福祉法人 福島幸愛会		
事業所名	グループホーム陽光園		
所在地	北海道松前郡福島町字三岳160-16		
自己評価作成日	令和7年1月12日	評価結果市町村受理日	令和7年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvogyoCd=0171500903-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvogyoCd=0171500903-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様にとって、ここが一番安心できて居心地の良い場所だと思えることを目指しお世話をしています。季節の食材を取り入れたり、嗜好に合わせた食事やおやつを用意しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福島町は函館より南西に約80Kmほど、渡島半島南西部に位置し、松前郡に属する。南岸は津軽海峡に面している。観光の一つとしては福島町岩部漁港から出航し、海の底が覗ける「グラスボート」で岩部海岸を周遊。高さ200mある岩部断崖や大きな奇岩は、まさに心揺さぶられる圧倒的な絶景、この美しく雄大な海に存在する青の洞窟は必見と紹介されている。「グループホーム陽光園」は、国道228号線・福島トンネルを抜けてほどなく市街地に達し、コンビニエンスストアを左折して住宅地の中にある。周りには運営母体関連の各施設があり、閑静なたたずまいの中にある。この事業所の特筆すべき点は、理念の如く「ゆったり、のんびり、楽しく、自分らしく・・・」を実践している点にある。家族の声にも「家にいる時より笑顔が増えた」「帰るときには職員と一緒に元気に手を振ってくれる」「健康面や医療面にとっても気遣ってくれている」等があげられている。管理者、職員共に利用者の笑顔に向けて取り組んでいて、地域で重要な役割を担う事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者がその人らしく暮らして行けるよう、事業所独自の理念を作り、職員は周知している。また、ホーム内の見やすい数ヶ所に掲示し、日々心に刻みながら介護している。	事業所理念を玄関他複数箇所に掲示し、職員一丸となってその理念のなかにある思い(ゆったり、のんびり、楽しくなど)を利用者の支援に活かしている。職員は研修の機会を通して理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所とは、日々の挨拶をする程度。感染症対策の為、町内の例大祭や高校の学校祭のパレードはホーム内から見学している。	近所の方々も亡くなっており付き合いは減ってきているが、フォトサークルから写真をもらい掲示したり、町内の例大祭や高校の学校祭のパレードを事業所内から見学したりして、地域との関係を絶やさないよう交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方を介護している方や、入所を検討している方の相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練の実施に併せ、利用者のご家族にも臨席していただき、日頃の処遇等について報告し、参加者の意見を伺った。	運営推進会議単独での開催にこぎつけていない。次年度より開催を増やす方向にて検討している。	運営推進会議は2か月に1度の開催が義務づけられている。もう一度その趣旨を理解し、書面でも良いので開催に向かって、地域と密着していただきたい。会議の活性化がもたらす効用が、職員意見の反映にもつながってくることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小さな町なので、役場職員ともほとんど顔見知りの関係で、話しやすく常に行き来しており、運営等についても話し合いをする機会が多い。	細かなことでも役所の福祉課と連絡をとり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で資料を使い理解を深め、実際のケアを振り返ったり、その都度身体拘束に当たらないかの確認をしている。防犯上、夜間(19:00～6:00)は鍵を掛けているが、日中は開けて出入り自由に行っている。(センサーで出入りが分かるようにしている)	身体拘束はしておらず、過去にも無い。感染症対策のため外部研修は控えているが、事業所内での研修を行っている。防犯上夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、ミーティングで取り上げて勉強したり、実際のケアを振り返り、虐待に当たらないか職員同士で意見交換し、身体的・精神的虐待を排除している。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で取り上げ、職員全員で理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結の際は、分かりやすい言葉を使い説明し、利用者・家族の疑問や不安を解消してから行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に意見や不満を言える関係作りをしており、言われた事は検討し改善するようにしている。玄関に苦情・意見・要望承りボックスを設置している。	月に1回、家族に請求書を送付する時に普段の様子の写真を同封したりして様子を伝えている。家族は利用料の支払いに事業所を訪れており、その際に利用者の様子を話し、家族の意見を聞いている。遠方の家族には、電話で様子を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティング等で意見や提案を受ける機会を設け、出された意見や提案は出来るだけ運営に反映している。	計画作成担当者は日常のミーティングで職員の意見を聞いている。又、月1回の職員会議でも計画作成担当者が中心となり職員の意見や提案を聞いて、その内容を管理者に伝え、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態を把握し、必要に応じ相談や助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町内で開催される研修に参加させる他、内部研修を実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道GH連絡協議会に入会しており、以前は研修会や交流会に参加していたが、今年度は参加出来ていない。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では、話しやすい雰囲気を作り、本人の生活歴・不安な事・大切にしている事などを出来るだけ話していただきながら、理解を深めている。施設見学や必要に応じ体験入所をしてもらうこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に心配な事、望んでいる事などを話していただき、当施設の普段の様子やどんな対応が出来るかをお伝えしている。電話での相談をいつでも受ける事もお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の希望や生活状況を聞き、当施設でのサービス内容を伝え、他のサービスが必要であれば提案し、選択していただくよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で職員が利用者に教えてもらったり、手伝ってもらう事も多く、お互い助け合いながら暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪した時には、近況を報告したり、写真を渡している。また、家族から聞いた入所前の話を介護に活かす事も多い。お互いに協力し合い、利用者がより良く過ごせるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が来訪した際は、気兼ねなく過ごせるような雰囲気作りをしているが、コロナによる面会制限が続く、窓越しに顔を見たり、電話で話したりする程度になっている。	現在は運営母体関連の全施設統一の対策もあり、直接面談はできないが、面会に関しては玄関内のガラス越しではあるが行っている。理容に関しては訪問してもらい、2か月に1回程度行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話が弾んでいる時は見守り、話に参加していない人も一緒に輪に入れるよう声掛けし、和やかな時間を過ごせるよう気配りをしている。利用者同士の人間関係を把握し、トラブルを未然に防げるようにしている。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約や退去された利用者および家族には、お会いすれば挨拶する程度でそれ以上の交流はない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者としつくり向き合い、思いや希望を引き出している。普段の生活の中で、1人1人と話す時間を作るようにしており、表情や態度を観察しながら出来るだけ本人の思いに近づけるようにしている。	普段の生活の中ではリビングでテレビを見ながら会話をし、利用者の意向をとらえて大事なことは個別記録に書いて職員皆と共有し利用者の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から聞いた生活歴・1日の過ごし方・趣味等をアセスメント表に記入し、職員全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録し、職員全員が状況を把握している。変化があれば、その都度口頭や連絡ノートを用いて周知出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にモニタリングを行い、各職員と日頃の様子を話し合ったり、利用者・家族の希望を出来るだけ取り入れながら作成している。	利用開始時は3か月、その後は6か月を基本として介護計画を立てている。モニタリングは職員全員で行い、抽出された意見や家族の意見も取り入れながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に、その日の行動や変化、ケア後の気づきを記録し、大きな変化は連絡ノートにも記載し、それを職員全員が確認・共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ、通院・外出等、必要に応じ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内に町民有志のサークル(福島フォトサークル)の写真を掲示しているが、他は特に協同はしていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に引き続き診てもらっている。入院や他医院への受診については、かかりつけ医から紹介してもらっている。異変があった時はすぐに連絡し指示を受けている。	町内には入院設備のある医院は無く、クリニックより月1~2回往診(内科・消化器科)に来ている。函館市への受診は家族が対応し、難しい場合は事業所で送迎している。	

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員がいないので、受診する程ではないが変化が見られ気になる時は、かかりつけ医院の看護師に相談し指示や助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が付き添い、必要な情報を提供している。入院中は病院スタッフから話を聞き、現状の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームでの暮らしが困難と見受けられる場合は、系列の特養への移行もある事を説明し同意を得ている。重度化・終末期についてはその時点で家族を交え話し合っているが、看護職員もおらず、町内に入院施設もなく限界を感じる事が多い。	看取りはしていないが、その直前までの支援を行っている。看取りの状況にあるときには、運営母体の中の施設、特別養護老人ホームに協力を依頼し出来るだけ本人、家族の要望にそよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の応急処置法はマニュアルがあり、職員に周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員会議で避難方法を確認し、年2回避難訓練を行っている。備蓄は3日分用意している。	災害訓練は今年度は2回行っている。冬の停電に備えて災害用トイレ、ポータブルストーブや発電機を備えている。備蓄も3日分ほど確保している。	①運営母体では災害用BCPを作成しているが、当事業所には保管していない。保管するとともにその内容を全職員と共有すること②災害訓練の時に近所や近くのコンビニエンスストア等にも広報し、近所との協力体制がとれること、を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの生き立ち、価値観、考え方を考慮し、自尊心やプライバシーを損ねない言葉を選び対応している。	利用者の呼称については苗字に”さん”付けと決めているがあだ名で呼んでほしいという方もいる。近所の利用者が多いこともあり、地元の言葉も交えて接している。パッドを置く棚には名前のイニシャルを記すなどプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食べ物の希望、観たいテレビ、何をしたいのか、どこへ行きたいのか等、あらゆる場面で選択の機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはある程度決まっているが、状況に併せそれぞれの意思を尊重し、自分のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは基本的に本人の意思で行ってもらうが、気候や体調に合わせ助言はしている。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの嗜好を把握しながら、好みの物や季節の食材をメニューに取り入れている。誕生日にもメニューを選択して頂いている。足腰の弱い方が多いので、座って出来る野菜の下処理や食器拭きを手伝ってもらっている。	利用者の誕生日はそれぞれ祝い、食事メニューも人気の3つの中(赤飯・いなり・ちらし寿司)から選択できるようにしている。各行事ごとにも料理が出され、工夫しながら食事を楽しめるよう支援している。利用者は調理前の野菜の下処理などに積極的に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、摂取量が少ない時は好みの物や代用品を用意し食べて頂いている。水分量は1日の目安を決め記録し、色々な飲み物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に合わせ、毎食後、声掛け・見守り・介助で行っている。義歯の洗浄、衛生管理も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録簿を基に、個々の排泄パターンを把握し、声を掛けたりトイレへ誘導し、失禁を減らすようにしている。排泄時には羞恥心に配慮し支援している。	排泄パターンを記録すると共に積極的に水分を定量採れるよう支援している。ほとんどの居室に夜間用のポータブルトイレを設置している。昼夜ともに排泄の細かな管理を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便出来るよう繊維質の物・野菜・果物・乳製品をメニューに取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は月～土、1日3人ずつ入浴してもらっている。入浴前にバイタルチェックを行い、異常がない事を確認している。また、入浴を拒否する方には、時間を置いたり、対応する職員を替えたり、その都度柔軟に対応している。	週2回を基本に午後から入浴を支援している。どうしても入浴を拒む利用者には時間をおいたりして個々の状態に合わせている。歌番組のテレビを見た後に入浴時間にしたり、夏場は入浴後に麦茶やスポーツドリンクを飲むなど入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に昼寝する時間を作り、その他にも居眠りをしたり、疲れた様子の時も休んで頂いている。夜は居室を好みの明るさにし、大きな音を立てないように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに処方箋を入れ確認している。変更があった時は連絡ノートを使い把握している。飲み忘れがないようお薬カレンダーを使用し、服用時には名前を読み上げ飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下処理や食器拭き、縫物や歌等、得意な事で力を発揮できるよう支援している。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、1人1人の希望に応じ支援するようにしているが、外出を希望する方が少ないのも現状。コロナによる面会制限も続いており、病院受診以外の外出はほぼない。	現在も感染症の影響で、外出はままならない状況である。利用者自身もあまり外出を希望する方がいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、家族と相談し小遣い銭を所持している方もいるが、使う機会はほぼない。それぞれの能力に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で掛けられない方は、職員が代行し家族と話しで頂いたり、手紙の返事は書く時は代筆する事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい居間にテーブル・ソファ・観葉植物を置き、写真や絵を貼り、落ち着いた空間にしている。また、季節や行事にちなんだ飾りつけをしている。	居間は食事場所と別になっており、広いスペースの両側にソファが並んでいる。利用者はゆったりと全員が穏やかにすわっている。窓も広くやわらかい日ざしが差し込んでいる。壁にはフォトサークルの季節ごとの写真が貼られたり、季節を感じさせる装飾がされている。居心地よく過ごせるような工夫をしており、清潔で明るい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置き、ひと休み出来るようにしている。また、居間と食堂が離れていて、それぞれが好きな場所で過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具・写真・思い出の品等を持ち込んで頂き、好みの居室にしてもらっている。観葉植物を置いている方もいる。	広めの居室になっており、備え付けのクローゼット、洗面台、テレビ、時計などがある。利用者の作った紙折り細工なども飾られて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる所に手すりを設置し、食事用椅子は高さの調節が出来る物を用意している。居室には表札・トイレや浴室には大きな字で書いた名札を掲示している。		